

山口県隊友会 宇部支部

『宇部護国神社の清掃(草刈)作業の実施』

隊友会宇部支部は、8月6日(日)に宇部護国神社の清掃(草刈)作業を実施しました。

参加者は、落合支部長以下9名の支部会員を含む宇部市民16名の有志達です。

炎暑のなか、9時に宇部護国神社境内に集合し、当日は広島の原爆忌ですので、神前に慰霊と作業安全を祈願した後、開始しました。



皆、草刈機の操作は、お手の物で、慰霊塔周辺から、境内全域に渡って刈取り、刈草の処分まで実施し、境内も綺麗に掃き清め、英霊に哀悼を捧げました。



忠 霊 塔



慰 霊 塔

由緒 宇部護国神社

此苑は、宇部護国神社(維新招魂社)の旧社殿跡です。江戸時代幕末、禁門の変(元治元年七月一八六四年)で戦死された福原藩(二十一名の御霊をお祀りし、又同年十月禁門の変の責任をとりて自刃された領主、福原越後元備公を主神としてお祀りしています。越後公辞世の句)

くもしきは絶ゆるわが身の夕煙
空に立つ名は捨くがてにする

今更ながら当時を偲ばれるものです。墓石には元治三年とありませう。いに長州人が元治にこたわりがあつたかと察せられます。社殿は慶応二年二月に落成し、十四日に初めの祭典が行なわれました。明治政府は維新の功績を称え、明治十年二月に社格を官祭に別せられました。爾来、例祭は、越後公御誕告月の九月二十四日に催行されました。御祭神は明治維新以来、日清日露とその後の戦争で戦死された諸霊をお祀りしています。昭和十九年四月十五日に現在殿に遷座され、社殿は現社殿の右に「祀殿」として建てられています。此の歴史を振り返りますと神域には古びた林立しの木を流る風々の風の音は今も耳もとに聞かれます。

平成二十六年二月吉日
宮司 野村好史
奉納 河村酒店
河村 博

